

## 関西創価高校スーパーグローバルハイスクール(SGH)の高校生が災害研を訪問 講義と演習を行いました(2017/3/21)

テーマ：スーパーグローバルハイスクール、Build Back Better (より良い復興)  
場所：東北大学災害科学国際研究所(宮城県仙台市青葉区)

2017年3月21日(火)の午後、関西創価高等学校スーパーグローバルハイスクール(SGH)から20名の高校生が引率教員とともに「東北フィールドワーク」の一環として、災害科学国際研究所(IRIDeS)を訪問しました。当研究所からは、人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野の井内加奈子准教授とマリ・エリザベス助教が、これまで海外にて災害復興問題に携わってきた知見を生かし「災害復興の国際事例：2013年台風ヨランダ後のタクロバン市の復興について」と題する講義と演習を行いました。講義後の演習では、参加型のゲーム(クロスロードゲーム)を行いました。

クロスロードゲームでは、2013年の台風ヨランダ後のタクロバン市を事例とし、復興関係者の立場(行政、NGO代表、住民)を考えながら、復興で直面する課題を各高校生が2択から1つ選択、その理由についての意見や実情について活発な議論を行いました。その後、グループでの作業として、高校生が前日に訪れた石巻での復興の現状を思い出しながら、タクロバン市との復興を比較し、Build Back Better(より良い復興)の定義を考え、発表しました。講義と演習に熱心に参加していた生徒たちからは、「クロスロードゲームによって、被災者の立場を復興の状況から考えることができた」「講義や演習は、石巻での学びをより深めてくれた他、国際的な復興の潮流も理解できた」などの声がありました。



講義の様子(左:井内加奈子准教授 右:マリ・エリザベス助教)



演習の様子(左:クロスロードゲーム, 右:グループワーク中議論する様子)

文責：マリ・エリザベス(人間・社会対応研究部門)

写真：小森 光(広報室)、井内加奈子(人間・社会対応研究部門)